

<中学校 国語>

生徒一人一人の自己教育力を育てるための授業の創造

— 説明的文章における課題解決学習をとおして —

豊見城村立長嶺中学教諭 野 村 朝 昭

目 次

I テーマ設定の理由	51
II 研究の実際	51
1 第一次感想の書かせ方	51
2 課題解決の段階に応じた学習形態の工夫	52
3 学習課題作りの手順(個々の問い合わせを生かした授業展開)	52
4 個の応じた課題解決の方法(アプローチの仕方の選択)	53
III 指導の実際	53
1 教材名	53
2 教材観	53
3 生徒の実態	54
4 研究テーマにせまるための学習指導の工夫	54
5 指導目標	54
6 教材の分析	55
7 授業計画	56
8 本時の展開	57
9 考 察	58
IV 研究の成果と課題	59
<主な参考文献>	59
<資 料>	60

<中学校 国語>

生徒一人一人の自己教育力を育てるための授業の創造 — 説明的文章における課題解決学習をとおして —

豊見城村立長嶺中学教諭 野 村 朝 昭

I テーマ設定の理由

平成元年に学習指導要領が改訂され、新しい学力観がうちだされた。これまでの知識や技能重視の学力観から、生徒一人一人の関心・意欲・態度を重視する新しい学力観へと転換した。そのため、「従来の学習指導の在り方の改善」が大切な課題になってきた。これからは、生涯学習体系への移行に向け、児童生徒一人一人の豊かな個性の形成を大切にしながら、社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を図らなければならない。そしてそこには、その大切な課題として、自己教育力の育成が掲げられている。

さらに本校における生徒の実態を考えると、学習の結果が簡単にフィードバックされるプリント学習等を好み、定期テストへ向けての学習は真面目に取り組む。しかし、自ら主体的に考えなければならないような深い思考を必要とする学習、文章の表現に即して、自ら判断しながら主人公の気持ちを読み取っていくような学習過程や、自己の思考の論理を明らかにし、まとめ、表現していく学習を苦手としている。

以上のような生徒の実態を含め、これらの新しい教育の流れを考えた時、国語科の目指すべき具体的な実践課題としては「生徒の主体性、自己教育力を重視する新しい学力観と、学習内容・方法のうえで具体的な関連がはかれる『授業』を創造すること」が最も優先されるべきものであろう。これまでの伝統的な教師の一方的な講義形式の授業から脱却し、生徒自らが生き生きと活動する授業を開拓することはできないのだろうか。生徒一人一人が教師の指示を待つことなく、瞳を輝かせ主体的に学習活動へ取り組む授業を創造することはできないのだろうか。

そこで一斉授業における欠陥を補い、生徒一人一人の興味・関心・意欲を喚起し、それぞれの自己教育力を育てるために、生徒の主体的な学習活動を重視する課題解決学習を授業に導入してみた。課題解決の満足感・成就感を味わわせ、各自で見つけて課題を解決していく学習を通して主体的に学習に取り組む生徒を育て、そして生涯学習へつながる力の育成を目指しこのテーマを設定した。そこで、次のような「仮説」のもとに、研究を推進した。

<仮説>

課題解決能力の向上を目指し、自力解決が可能な学習課題の開発や課題解決の見通しを明確にもたらす学習活動を開拓させれば、主体的な学習活動の中から個々の言語能力が高められ、一人一人の自己教育力を育てることができるであろう。

II 研究の実際（課題づくりの手順と解決方法の明確化）

1 第一次感想の書かせ方

課題解決学習の成否は価値ある学習課題の設定によるといってもよいだろう。深まりのある課題を引き出すためにも第一次感想の書かせ方を工夫してみた。

- (1) 一読後直ちに感想を書く
- (2) 問題意識を十分もたせて読ませる（導入の工夫・動機づけ）
- (3) 筆者の考えに十分に向き合わせる
- (4) 話し合って感想を十分に出させる
 - ① 簡単な感想を書いてから発表する ② 発表させる順番を考え全員に発表させる
 - ③ グループで話し合う ④ 話し合いの対象を決める
- (5) 視点をどこに置くか（わかったこと、わからなかったことを中心に書く）
 - ① すぐ分かるものに視点を置いて書く ② 大きな視点でとらえて書く

(6) 主題につながる課題づくり

- ① 感想を書く（感想文としてではなく） ② 感想を発表し合う
- ③ 個人の学習課題を決める ④ 個人の学習課題を出しあい共通課題を作る

2 課題解決の段階に応じた学習形態の工夫

課題解決学習の実践を考えるとき、一つの大きな課題となることに、様々な学習形態からのアプローチということが考えられる。そこで学習の形態を『集団（一斉）』『小集団（グループ）』『個別（ひとり学び）』の三形態とし、それぞれの段階に適した学習形態の工夫を考えてみた。まず三つの学習形態の特質を定義した。

(1) 集団学習が効果を上げる場面

- (a) 学習活動のはじめ、あるいは学習方法を示唆する場面
- (b) 学ぶなかで、受け取り方の違い、予想や説き方の違いなどを比較・検証して思考の深化を図る場面

(2) 小集団学習が効果を上げる場面

- (c) 言語表現をもとに個人思考が成立し、それを深める場面
- (d) 課題の設定や解決、まとめが、個人の感想や疑問、問題をもとに行なわれるとき

(3) 個別学習が効果を上げる場面

- (e) 学習の課題に対して向き合い、解決への試行を行なうとき
- (f) 個人差に応じた学習活動が設定されているとき
- (g) 作文や創作など、創造性・個性の伸長が重視される場面

3 学習課題づくりの手順（個々の問い合わせ生かした授業展開）

課題解決学習の形態は様々なものが考えられるが、ここでは北海道教育実践研究会・高橋(1990)の小課題を生かしながら共通課題の解決に迫る課題づくりの手順をもとに、私なりの授業のパターン化・モデルづくりを試みてみた。次に示す通りである。

< 授業計画の確立（パターン化）>

◆全体計画を7時間に設定した場合 ※(a)～(f)は上記との関連

時数	授業展開	形態
1時	I 《学習へのアプローチ》 ①導入 ②範読 ③初発の感想を書く ④ワークシート(漢字・語句・作者について)◆やり残した分については家庭学習とする	一斉(a) 個別(f)
2時	II 《課題設定》 ①構成 ②初発の感想の発表(全員の感想を名前入りのプリントにしておく) ③初発の感想をもとに学習課題を作成する 〈学習計画の立案〉 ◆Aパターン（一斉授業において） ・各段階の範読後、全員で課題をまとめ段落ごとに振りわけていく ◆Bパターン（グループ学習において） ・各グループでメンバーの課題をまとめ段落ごとに振りわけていく ④学習計画表への書き込み	一斉(a) グループ(c)(d)
3～5時	III 《課題解決》 学習活動 ワークシートを用いて小課題、共通課題への取り組みを行なう	一斉(a) 個別(e) グループ(c)(d) 一斉(b)
6・7時	IV 《定着・習熟》 ①これまでの共通課題のまとめをする(中心課題に迫るため) ・黒板用プレートとワークシートを準備する ②ワークシートを用いて小課題、中心課題への取り組みを行なう ③「学習の感想」をまとめる ④ワークシートを活用して学習のまとめをする	一斉(a) 個別(e) グループ(c)(d) 一斉(b) 個別(c)

<授業展開の確立(パターン化)>

◆Ⅲ《課題解決》学習活動・1時間の授業の流れ

時	授業の展開	形態	
導入 10分	①導入(前時の確認等) ②範読(本時の段落を読む) ③設定された小課題から全員で話し合って共通課題を設定する	(提示)	一斉(a)
展開Ⅰ 10分	④ワークシートに設定された小課題から、解決したい課題を2~3問選び、課題解決に取り組む ◆解決のおわったものは共通課題に取り組んでも良い	(ひとり学び)	個別(e)(f)
展開Ⅱ 15分	⑤各自が取り組んだ小課題の答えをもとに共通課題にアプローチする (練り合い) ◆班長を中心に話し合い、課題解決に取り組む	の共通課題に関するも↓ヒントカード↓小課題に関するもの	グループ(c)(d)
まとめ 15分	⑥解決した課題を発表する ◆個人課題→発表希望者が前に出て板書する ◆共通課題→班長が前に出て板書する ※板書がおわったら、班長は発表した課題の結論にいたった根拠・理由について必ずコメントする ⑦解決した課題について話し合い、深めていく(深化) ⑧教師は生徒の発表した課題の結論に対して、アドバイスという形でコメントし評価する ⑨次時の学習について予告をする (統合)		一斉(b)

4 個に応じた課題解決の方法(アプローチの仕方の選択)

課題解決学習は問題解決学習から発展してきたものである。その基本的なプロセス(問題の把握→仮説の設定→仮説の検証)から課題解決学習の検証の方法を考えたとき、アプローチのスタイルは多岐にわたるのではなかろうか。

そこで様々な教材への取り組みを想定して「個に応じた課題解決の方法」を模索した。今回はその中から特に、次の点に留意して授業を展開した。

<個に応じた課題解決の方法・アプローチのスタイル>

- (1) 印象に残った語句(キーワード)や表現を抜き出してみる
- (2) 教材を構造化する
- (3) 指示語・接続語などを手がかりに段落の関係を読み取る
- (4) オリジナルワークシートを作る
- (5) 教材を参考にしながらレポート作りをする

その他にも様々な形でのアプローチが十分に考えられる。まずは生徒に考えさせてみたい。教師にはない新しい発想が出てくれば何よりも素晴らしいことだ。そして生徒の選択した課題をさまざまな学習形態からアプローチさせ、その課題の追求へと向かわせてみたい。

III 指導の実際

1 教材名

「トレーニングの適量」 正木健雄(光村図書 国語2 単元5 生活を科学する)

2 教材観

世はまさに「スポーツブーム」と言えるのではなかろうか。さまざまな電化製品の普及、週休二日制の導入などによる余暇時間の増大などから、子どもから老人まで、健康の維持や趣味の一つとして、スポーツに親しんでいる人の数が多い。ましてや、元気いっぱいの中学生においてはスポーツに対する関心は我々大人が考える以上であろう。

本教材「トレーニングの適量」は、単元5「生活を科学する」-文章の構成や展開を的確にとらえ、生活を科学的に考える-の一つである。中学二年というこの時期は、急に理屈っぽくなり、論理的思考を好む時期である。内省的な部分があらわれ、普段何気なく行なっている行動に対しても自分なりに考えてみたり、自分のやっていることが、合理的な事かどうか、振り返りながら行動しようという自覚が

表れるときもある。

この教材は、先にも触れたように、現在のスポーツブームを背景に教科書へ取り上げられた作品だといえるだろう。一昔前の根性論や、科学的根拠のないしごき・特訓とは対極をなし、極めて論理的かつ、実践的なスポーツ理論に貫かれている。一読したあと、なるほどと首をうなづかせるようなインパクトをもった作品であるといえよう。そこで、本单元では、スポーツに対する興味関心から、教材に対する「生徒の興味・関心」を有効に引き出し、さらに自己教育力を育てるために、授業に課題解決学習を導入してみた。

3 生徒の実態

ときおり私語や居眠りをする生徒も何名かいるが、全般的には明るく真面目な態度で授業に臨んでいる。男子は快活で積極的に授業に臨む生徒が5～6名いるが、女子はおとなしい生徒が多いせいか積極的に挙手をする生徒は男子に比べて少ない。教師の授業設定によっては、楽しく授業に取り組み、提出物の提出状況など真面目であるが、自己教育力が育っているとはいえない状況である。説明文の授業における生徒の学習意欲は、他の文学的文章や古典の教材などに比べて取り立てて高いように感じない。社会的事象や科学的な専門語が多いせいなのかもしれないが、要点の読み取りだけに終始したマンネリ化した授業の責任も大きいように感じる。

4 研究テーマにせまるための学習指導の工夫

説明文の指導とは、「筆者がどのようなこと（情報）を読者に伝えたいのか。筆者の意図を読み取る段階で、必然的に、技能目標が一人一人の生徒に、習得できるような学習過程」また、「生徒自らが深くその教材にかかわるために大切な必然性のある動機づけから、その学習を展開させる学習過程」と考える。技能習得のために教材があるのではなく、自分自身の課題を解決するために教材に取り組み、その課題を解決していくなかから技能目標を習得できる。そのような学習過程から、生徒一人一人の興味・関心・意欲を喚起し、それぞれの自己教育力を育てることを目指し、この单元に取り組んでみた。

(1) 自力解決が可能な学習課題の開発

① 第一次感想の書き方

- ・「初発の感想カード」の工夫（教材を読んでわかったこと、わからなかったことを記入させる）

② 学習課題づくりの手順

- ・オリジナルワークシート作成の仕方・「体力アップレポート」の作り方（個々の問い合わせを生かした授業展開）

(2) 課題解決の見通しを明確にもたせた学習活動の展開

① 課題解決の段階に応じた学習形態の工夫

- (一斉 ⇒ 個別 ⇒ グループ ⇒ 一斉)

5 指導目標

(1) 進んで学習する態度を養い、主体的に学習させる。<関心・意欲・態度><表現>

- ① 「オリジナルワークシート」作りをとおして、主体的に教材を読む態度を育てる。
- ② 日頃の実践を目標に据えた「体力アップレポート」作りをとおして、論のすすめ方（書き出し、構成）を工夫した文章を書かせる。

(2) 文章の展開に沿って、次の事柄や要点を正確に捉えさせる。<理解>

- ① 文章全体を、内容からいくつかの部分に分け、論理的に構成されていることをとらえさせる。
- ② 「トレーニングの効果を上げるための五つの原理」を理解させる。
- ③ 「トレーニングを効果的にするための具体的な方法」を理解させる。
- ④ 科学の成果や先人の知恵に学びながら、合理的なトレーニング方法を考え、実践していくほしいう筆者の意図を理解させる。

(3) 論理的文章においての言語事項に関する技能を習得させる。<言語事項>

- ① 文脈における語句に着目させる中から、設定した課題を解決させる。
- ② 文章の展開に接続詞が効果的な役割をはたしていることをとらえさせる。

6 教材の分析

◆「構成」	→形式段落 16 意味段落 4
〔第1段落〕	<p>■問題提起 『効果を上げるトレーニングとは?』</p> <p>①「君たちの中には~いないだろうか。」 読者に対する呼びかけ ・科学的にみていってみよう(全文に流れる科学性)</p>
〔第2段落〕	<p>■提起された問題を考えるための基礎的な理論 『トレーニングの効果を上げるために五つの原理』</p> <p>②「トレーニングとは」 ・筋肉が強くなる→筋肉が太くなる→筋肉細胞が大きくなる ・筋力トレーニングは細胞の変化を持続的なものにしなければ意味はない</p> <p>③「では、どうすればいいのか。」 問題の再提起 ・(図1)刺激と回復のモデルから</p> <p>④トレーニングの効果の第一の原理 オーバーロードの原理 ↓ ある強さ以上に体を働かせると、回復の際に回復の過剰が起きる ↓ ※「過剰」の意味を押さえさせる 「超回復」 ・第一に日常生活で働かせている以上に体を働かせる</p> <p>⑤「ところが」 それは一時的なもの ・第2の原理 繰り返しトレーニングを行なうこと</p> <p>⑥「このように」 ・第3の原理 少しずつ程度を高めること</p> <p>⑦「ところで」 事情は一人一人で異なる ・第4の原理 一人一人の条件を考える</p> <p>⑧「そして」 ・第5の原理 各人が意識的にみて行くことが大切</p>
〔第3段落〕	<p>■基礎理論の現実への適応・現実的考察 『トレーニングを効果的にするための具体的な方法』</p> <p>⑨「では」→具体的なトレーニング方法への話題の転換 ・話題紹介 筋力トレーニング</p> <p>⑩「図2には」 ・トレーニングの強さと効果 ・筋力値の最大値を100として ↓ 20%以下(マイナス)、20~30%(現状維持)、30%以上(効果)、40%以上(同じ)</p> <p>⑪「それでは」 ・どれぐらいの時間、継続して刺激を与えるか</p> <p>⑫「次のページの表」 ・トレーニング強度とトレーニング時間との関係</p> <p>⑬「これで」 ・トレーニングに必要な時間と「不応期」 ↓ その過程が終わるまでは、次の刺激を加えても応じない期間のこと ・「今では、効果があがる時間だけあるトレーニングをしたら、別のトレーニングに移行するほうが有効だとされる」</p> <p>⑭「次に」 ・トレーニングの効果の持続期間 ・<上><中><下>で示された三つのパターン ※表に再構成させるなどして理解を深めさせる(⑮段落との関係)</p> <p>⑮「このように」 ・筋力を向上させる条件がわかれれば、目的に応じた方法が工夫できる ・近い大会→全力 生活に必要→半分</p>
〔第4段落〕	<p>■筆者の考え・呼びかけ 『生活のなかにおけるトレーニングの原理や条件の生かし方を考えてほしい』</p> <p>⑯「君たちは」 書き出しの部分と対応する(読者への呼びかけ) ・「生活のさまざまな面において、君たち自身で目標を設定し、目的に応じた方法を工夫して、実践していくもらいたいものである。」</p>

★表現上の工夫

- ・I 問題提起 II 基礎的な理論 III 理論の具体的な説明 IV 生活へ還元させるまとめ、という構成から筆者の論を論理的に読者へ理解させようという工夫がみられる。
- ・形式段落の冒頭に指示語(接続詞)をおいて、段落相互の関連を明確にしようとしている。
- ・科学的な根拠に基づいたデータを、数字やグラフで表し、筆者の論を論理的・視覚的に表現している。
- ・読者である中学生の生活を念頭において、論説をまとめている。

7 授業計画（10時間設定）

時	学習活動	指導上の留意点・評価	形態
1	<p>＜学習のめあて＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「トレーニングの適量」を読み、感想を持つ。 ・学習する見通しをたて、自己評価をする。（毎時間必ず自己評価をして終わる・10時間） <p>(1)導入（単元全体の目標を確認する）</p> <p>(2)「あなたの体力チェック」をもとに学習への動機づけを図る（学級掲示予告）</p> <p>(3)これからの学習が、教材終了後の「わたしの体力アップ大作戦」のレポート作成に関わることを予告して動機づけを強化する（内容・文章構成等）</p> <p>(4)範読</p> <p>(5)教科書に印象に残った事柄・疑問・気づいた点・同様の体験をした記憶・すぐれた表現などを書き込む</p> <p>(6)初発の感想をまとめる（学習課題の形で書いてても良い）</p> <p>(7)学習計画表を使って学習の見通しをたてる</p> <p>(8)自己評価をする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決学習を通して、普段の生活を科学的に考えて改善していくことを理解させる ・自己評価票を配布してこれからの学習に対する意識付けをする ・文章の構成や展開を的確にとらえ、生活を科学的に考えるのサブテーマを意識させること ・この書き込みが課題設定につながることを認識させる（自由に書かせる） ・教師から表現に着目するよう指導する <p>・形成評価1（学習計画表による自己評価・学習のめあてを確認する）</p>	一斉 個別
2	<p>＜学習のめあて＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形式段落ごとに要点をまとめ、小見出しをつける。 ・ワークシートを活用して新出漢字や語句調べをする。 <p>(1)教科書に形式段落ごとに番号をうたせる</p> <p>(2)8の班に分けて、まとめる段落の分担をし、それぞれの段落の要点をまとめる</p> <p>・16段落あるので、1班につき2段落を分担する</p> <p>(3)各班まとめた紙を黒板に貼付する</p> <p>(4)それぞれの要点を話し合いながらまとめていく</p> <p>(5)黒板に意味段落をまとめた表を書き、小見出しを考えさせる</p> <p>(6)ワークシートを活用して、新出漢字や、難語句について学習する</p> <p>(7)次時においてワークシート作りをすることによることを予告、家庭学習として問題を考えるように指示する</p> <p>(8)自己評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・B4の紙とマジックを用意して、それに箇条書きさせる <p>・時間内に終わらないぶんは家庭学習とする</p>	一斉 個別
3 ・ 4 ～ 本 時	<p>＜学習のめあて＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習したことをもとに、オリジナルのワークシートを作ろう。 ・ひとり2～3問を目標に作成し、班ごとにまとめていく。 <p>(1)配布された「オリジナルワークシートを作ろう」のプリントをもとに、ワークシート作りの手順について理解する</p> <p>(2)わかったこと、わからなかったことをもとに問題作成をする</p> <p>(3)それぞれのグループに分かれて、担当段落の問題作成に取り組む</p> <p>・全員の初発の感想を参考にさせる</p> <p>・用意された用紙に書き込ませる</p> <p>・学習して、理解したこと、わからないことをもとに課題を作る</p> <p>・資料をもとにして、価値ある学習課題を作らせる</p> <p>・班長を中心に全員の問題をまとめさせるようにする</p> <p>(4)できたグループは教師からの、アドバイスを受け、問題を完成させる</p> <p>(5)班長に問題をまとめ、教師に提出するように指示する</p> <p>(6)自己評価をする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート作りには、教師も参加し、まとめていくことを前もって説明しておく ・初発の感想をまとめたプリントを配布する <p>・なるべく全員の課題をワークシートに入れるため、一人2～3問作成させる</p> <p>・ワークシート作成の際は、問題作成者の名前を記入する</p> <p>・提出された課題（問題）は、教師でワークシートにまとめ、次時からの授業に活用する</p>	一斉 個別 グ学 一斉 個別

時	学習活動	指導上の留意点・評価	形態
5	<p><学習のめあて></p> <ul style="list-style-type: none"> 効果を上げるトレーニングに大切なことは何かを、考えながらワークシートに取り組もう。 みんながわかりやすいように説明しながら解答してあげよう。 <p>(1)意味段落の1・2(3・4)を読む。(挙手)</p> <p>(2)ワークシートを活用してひとり学びをする</p> <p>(3)グループでワークシートに取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題解決への取り組みがうまく行かないときは教師からの助言(ヒントカード)を受け、学習活動を進める <p>(4)それぞれが解決した課題(ワークシート)の答を板書して、発表する</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題を作成した生徒で、説明の可能な生徒は前に出て解答をする(できるだけ、解答の根拠となった表現を押さえさせる) <p>(5)自己評価をする</p>	<ul style="list-style-type: none"> 形成評価2(課題解決へ進む前に一人学びをすることによって、課題へ取り組む意欲を育てる) →15分 グループごとにワークシートに取り組む →10分 教師は活動の様子をみて援助活動をする 教師はまえもって課題解決の手助けとなるヒントカードを3~4枚作成し、準備しておく →20分 教師は課題解決の方向が横道にそれたように感じた生徒に関しては、ヒントカードを活用して軌道修正を図る 	一斉 個別 一斉 個別
7	<p><学習のめあて></p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを活用して学習したことを見直す。 学習を終えての感想をまとめ、「体力アップ作戦」のレポート作りについて考えてみよう。 <p>(1)作品の構成や展開について考えまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートに作品を読み終えての感想、解決した課題を理解したかどうかの確認の設問を設けて、学習の達成状況を確認する <p>(2)次時からの調べ学習に向けての構想をまとめる</p> <p>(3)自己評価をする</p>	<ul style="list-style-type: none"> 形成評価3(学習の達成状況を把握) レポートの内容をある程度イメージさせておく 	一斉 個別
8	<p><学習のめあて></p> <ul style="list-style-type: none"> レポートの作り方について理解しよう。 どのようなレポートを作成するかの構想を持とう。 <p>(1)これから作成するレポートについての説明をする。(プリントを活用して、課題の内容や、書式について理解する)</p> <p>(2)資料などを活用してレポートの構想をまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> 構想のまとまった生徒は教師の許可を得てレポートを書きはじめる <p>(3)自己評価をする</p>	<ul style="list-style-type: none"> 図書館を活用する トレーニングに関する図書を前もって確認しておき、蔵書の少ない場合は、司書を通じて、確保するよにする この調べ学習が今後の読書活動へ発展するよう配慮する 	一斉 個別
9 10	<p><学習のめあて></p> <ul style="list-style-type: none"> 学習したことをもとに、「わたしの体力アップ作戦」を作ろう。 「レポートの作りの方法」をよく読んで、わかりやすいレポートにしよう。 <p>(1)前時の構想をもとにレポート作りをはじめる</p> <p>(2)完成したレポートを友達同志で交換推敲させてより良いものにさせる</p> <p>(3)教師へ提出する</p> <p>(4)自己評価をする</p>	<ul style="list-style-type: none"> 専用のレポート用紙を用意する 上手にできた生徒の作品などを紹介して、参考とさせる 表やイラストなども書かせ、個性的なレポートになるようにする 提出された作品は、学級掲示するか、冊子にするなどして生かす 	個別

8 本時の展開 3 / 10

(1) 指導目標

- ① 進んで学習する態度を養い、主体的に学習させる。<関心・意欲・態度><表現>
- ② 「オリジナルワークシート」の作り方の指導や「オリジナルワークシート」作りをとおして、要点をおおまかにとらえさせる。<理解>
- ③ 論理的文章においての言語事項に関する技能を習得させる。<言語事項>

(2) 展開

時	学習活動	指導上の留意点・評価	形態
導入5分	<学習のめあて> ・学習したことをもとにオリジナルのワークシートを作ろう。 ・ひとり2~3問を目標に作成し、班ごとにまとめていこう。	・ワークシート作りには、教師も参加し、まとめていくことを前もって説明しておく	一斉
展開Ⅰ 20分	<導入> → 既習事項の整理 (1)前時の確認をする(OHP活用) ・意味段落について押さえる	・教材を読んでわかったこと、わからなかったことをもとにして、課題を作ることを強調する ・教科書を繰り返し読むことが大切であることに気づかせる ・教師は机間巡回をしながら支援活動をする	
展開Ⅱ 15分	<展開Ⅰ> → 課題作りの手順 (2)配布された「オリジナルワークシートを作ろう」のプリントをもとに、ワークシートの作りの手順について理解する(OHP活用)	・なるべく全員の課題をワークシートに入れるため、一人2~3問作成させる ・ワークシート作成の際は、問題作成者の名前を記入する	個別
展開Ⅲ 5分	<展開Ⅱ> → 個別に課題作りへ取り組む (3)初発の感想を全員で読む (4)書き込みプリントを活用して、教材を読んでわかったこと。わからなかったことを書き込ませる (5)かわったこと、わからなかったことをもとに問題作成をする ・生徒の書き込みから2題選んで、教師が実際に問題を作つてみせる(問題作成のできた生徒がいればそれを活用する) ・全員の初発の感想を参考にさせる	※<展開Ⅲ>に取り組む時間がない場合は、家庭での課題とし、グループでの活動は次回に設定する ・教師の指導目標に則った問題作りとなるよう方向付けをする ・教師は自ら作成したワークシートをもとに各グループに適切なアドバイスを与える ・提出された課題(問題)は、教師でワークシートにしてまとめ、次回からの授業に活用する	個別
まとめ5分	<展開Ⅲ> → グループで課題作りへ取り組む (6)グループに分かれて、担当段落の問題作成に取り組む ・用意した用紙に書き込ませる ・学習して、理解したこと、わからなかったことをもとに課題を作る ・資料をもとにして、価値ある学習課題を作らせる ・班長を中心に全員の問題をまとめさせるようにする (7)できたグループは教師からのアドバイスを受け、問題を完成させる	・形成評価1(学習計画表による自己評価・学習のめあてを確認する)	個別
	<まとめ> → 評価 (8)自己評価をする (9)次時の活動の予告をして、家でできる分はやってくるように指示する		

9 考察

今回の検証授業で、積極的に活動し、意欲的に学習へ取り組んだ生徒Kさんの活動の様子を、観察法と授業の感想・自己評価・提出した課題の分析から考察した。※自己評価の評価基準(Aよくできた・Bまあまあできた・Cちゃんとできなかった)

時	学習活動(課題解決の六段落)	生徒の活動・思考の流れ	授業の感想	自己評価	考 察
1	I 《学習アプローチ》 ・導入、単元目標の確認 ・教材の読み ・初発の感想をまとめる	初発の感想から『筋肉には一度刺激を与えられ、科学的な変化が起こるということが分かった。体力づくりは毎日続けることが大切と思った。』	今日の授業は自分の体力テストをやっておもしろかった。	興味 A 満足 B 真面目 A 工夫 B	・導入に用いた体力テスト「あなたのオジン・オパン度チェック」で楽しく教材を取り組めたようである。 ・初発の感想は、筆者の科学的な視点に注目している。
2	(基礎的基本的な学習への取り組み) ・グループごとに形式段落の要点をまとめる ・意味段落に分けて小見出しをつけける	グラフ<上><中><下>を参考にしながら、項目ごとに要点をまとめた。(次時の学習に間に合わせようと、休み時間になってしまって一生懸命にグループで取り組んでいた)	グループでまとめると要点がいくつもでき良かった。	興味 B 満足 B 真面目 B 工夫 B	・Kさんのグループの担当した段落では読み取りの難しい箇所で、授業時間内で要点を読み取ることはできなかった。教師から項目ごとに読み取ることをアドバイスした。 ・從来どおりの授業を行ない、指導過程への配慮が足りなかったせいか、自己評価はオールBであった。(工夫が必要)
3 ・ 4	II 《課題設定》 ・ワークシートの作りの手順を理解する ・個別に問題作りをする(ひとり学び) ・グループで問題を作りまとめる(練り合い)	Kさんの作成問題→P169のグラフから順にA・B・Cとつける。《Q》次のグラフはトレーニング期間からトレーニング停止後の筋力の変化を表したグラフです。グラフと内容のあっている文を線でつなぎなさい。』	問題作るのは、もう少し時間をかけた方がいいと思う。少し緊張した。問題作りは頭もたくさん使うので何回も悩んだ。	興味 A A 満足 A B 真面目 A A 工夫 A A	・問題作成の時間を保障する必要がある。 ・『悩んだ』という感想ではあるが、自己評価がかなり高く、真剣な取り組みの様子がうかがえる。 ・教師から問題作りのアドバイスを受けたが、それをさらにアレンジして、独自の問題を作ろうと試行錯誤を繰り返していた。
5 ・ 6	III 《課題解決》 ・意味段落1・2(3・4)についてのオリジナルワークシートI・IIを学習する ・個別(ひとり学び) ・グループ(練り合い)	ワークシートI 正答率 58.8% ワークシートII 正答率 92%	みんなが作った問題をとくのは楽しかった。 みんなが作った問題をとくのは、けっこうおもしろい。	興味 A A 満足 A A 真面目 A A 工夫 A A	・自己評価はオールAと集中して授業へ取り組めたようである。 ・苦労して作成した問題が、ワークシートに採用されたことがうれしかったようである。 ・ワークシートIIはKさんの問題が取り上げられているが正答率が92%であった。

7	IV 《定着・習熟》 ・学習のまとめをする（既習事項の確認・構成・感想など）	学習のまとめ 正答率93.7% これまでの授業の感想『自分で作るオリジナルワークシートを作ったり、他の人が作ったのを解いたり、普通の授業より自分の考えが持てて良かったと思う。』	トレーニングの効果についてなんとなく理解できた。	興味 B 満足 A 真面目 A 工夫 A	・前時に比較して興味の評価がBとなった要因は何か、一考を要する。 ・今回の授業に対して『自分の考えが持てて良かった』としており、主体的に課題に取り組んだことがわかる。 ・正答率が93.7%と高く、理解の領域も高まつたことがわかる。
8 9 10	V 《応用》 VI 《評価》 ・レポート作りの手順を理解する ・段落構成・接続詞の使用の条件に留意しながらレポート作りをする ・レポートの提出(評価)	1段落「風邪や運動不足の解消のため」 2段落「オーバーロードの原理」 3段落「バレエのレッスンに加えて、週2回ストレッチ体操、背筋をのばす」 接続詞（また、しかし、これらを）	自分のために、いいレポートを作りたい。 何を書こうか迷ったが少しずついいアイディアが浮かんだ。 レポート作りは思っていたより前に進まなかった。	興味 AAA 満足 BAA 真面目 AAB 工夫 AAA	・3段落で終わっており、4段落構成の条件を満たすことができなかった。（レポート作成の条件が難しかったのか） ・接続詞の使用条件は満たされていたが段落構成のなかでの効果的な活用が見られなかった。（指導の工夫が必要） ・興味・工夫の評価は高く維持された。

また、第7時に実施した「学習のまとめ」の結果と「授業の感想」を次の表にしてまとめた。

《学習のまとめ・平均得点》(16点満点)

《自グループ作成問題正答率》

検証授業クラス	他の抽出クラス	差
12.94	11.77	+1.17

グループ	A	B	C	D	E	学級の平均正答率
正答率	50%	100%	100%	100%	75%	87.1%

《授業の感想》

V 研究の成果と課題

<成果>

- ・「初発の感想」をわかったこと・わからなかったことに分けて書かせたことで、抵抗なく学習課題が作成できた。
- ・「オリジナルワークシート作り」を通して、生徒一人一人の関心・意欲が高まり、一斉授業に比べて、主体的に学習する態度が向上し、学習への理解も深まった。
- ・「わたしの体力アップ大作戦」のレポート作りを通して、学習したこととともに一人一人が自己の問題を考え、表現していくとする態度と表現の領域の技能が向上した。
- ・授業のなかに三つの学習形態を導入することによって、段階にみあつた学習形態が確立され、生徒一人一人が意欲的に学習に参加するようになった。
- ・課題解決の授業の流れをパターン化することによって、課題解決の一つの形ができ、学習の展開の見通しがたてられるようになったことから、生徒それぞれが自分なりに学習へ取り組むようになった。

<課題>

- ・学習への意欲的な参加がみられなかった生徒への具体的手立ての方法（学習時間の保障、ヒントカード活用の工夫）
- ・様々なジャンルへの課題解決学習の試みと教材の精選
- ・個に応じた課題解決の方法の模索
- ・評価の領域の充実（観点別評価の理論的研究・年間指導計画をもとにした観点別評価補助簿の作成）

<主な参考文献>

安藤修平著	『中学国語科学習課題の構成法』	明治図書	1986年
石田佐久馬編集	『第一次感想から学習課題へ』	東洋館出版社	1992年
北海道教育実践研究会著	『「課題」のある国語の授業』	明治図書	1990年
森田信義編著	『説明的文章の研究と実践』	明治図書	1989年
国語教育研究所編	『国語教育研究大辞典』	明治図書	1991年

＜資料＞資料1 第3時に活用した「オリジナルワークシート作成の仕方」（Kさんのワークシート）

資料2 オリジナルワークシートⅡ（Kさんの作成した問題は第4段落・問2の問題）